TORRANCE
UNIFIED SCHOOL DISTRICT

２０２５年における学校の現状
地域社会向け年次報告書

日々、すべての生徒の力を引き出す







ウェブサイト
tusd.org

ソーシャルメディア
tusd.org/social-media

ご質問、ご意見はこちらへ
communications@tusd.org

Torrance Unified School District
2335 Plaza del Amo
Torrance, CA 90501

NONPROFIT ORG
U.S. POSTAGE PAID
TORRANCE, CA
PERMIT NO. 176

教育委員会

Dr. Anil Muhammed, President | Trustee Area A
Betty Lieu, Esq, Vice President | Trustee Area D
James Han, Clerk | Trustee Area C
Dave Zygielbaum, Member | Trustee Area E
Jasmine Park, Member | Trustee Area B

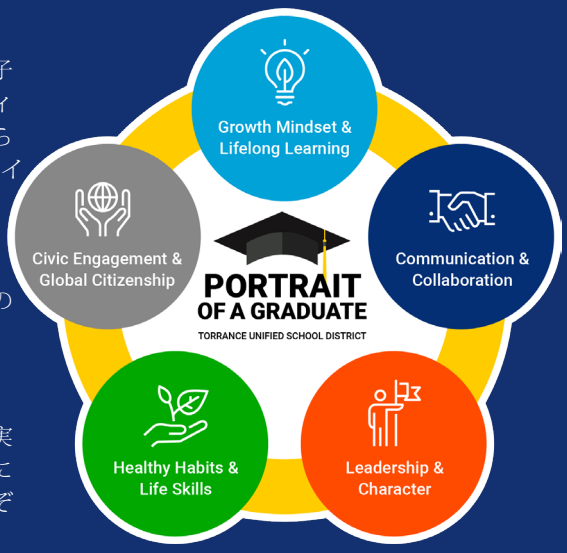
Escanear El Código
Para Español
日本語のスキャンコード
한국어 스캔 코드
扫码查看中文

教育長からのメッセージ

本年度の「学校の現状」年次報告書を皆様と共有できることを誇りに思います。この報告書は、当学区の各学校で日々行われている素晴らしい取り組みと、生徒たちが学業、芸術、スポーツ、奉仕活動において卓越した成果を上げ続けている多様な活動を反映しています。お子様が当学区に通われているかどうかに関わらず、これらの取り組みはトーランスコミュニティ全体にとって重要な意味を持つと確信しています。強固な学校区は私たちの街に価値をもたらし、卒業生たちは私たちの未来を共に形作るでしょう。本年、当学校区は5年連続でサウスベイ地域**最優秀公立学校区**に選出される栄誉を賜りました。この栄誉は、卓越した教職員の献身、技能、そして思いやりの賜物であり、生徒たちへのたゆまぬ尽力に深く感謝しております。

本年度も引き続き、**卒業生の肖像**に焦点を当ててまいります。これは、トーランス統一学区の生徒全員が卒業までに身につけるべきと考えるスキルと資質のビジョンです。昨年度は、「ポートレート」とその6つの要素に関する周知と理解の促進に取り組んでまいりました。

本年度はその基盤を踏まえ、生徒一人ひとりがこれらのスキルを全ての学年段階において、実践的かつ真に意義のある形で発揮できるよう定義づけを進めております。これにより、未来に備えた確かな力を身につけることを目指しています。また、今年度の各ストーリーは、それぞれが示す要素との関連を明確にしながらご紹介しております。ぜひご覧ください。





トーランス統一学校区において、すべての生徒が支えられ、挑戦を受け、そして自らの可能性を最大限に発揮できるよう励まされる環境図栗に、日頃よりご理解とご協力を賜り心より感謝申し上げます。これからも力を合わせて、すべての生徒一人ひとりを日々支え、成長を後押ししてまいります。

Dr. Tim Stowe

教育長

Scan Here
卒業生の肖像についての詳細は
こちらをスキャンしてください

トーランス統一学校区の概要

22,023
生徒

34
学校

17 小学校
8 中学校
4 高校(HS)
1 継続高等学校
1 代替教育機関
3 成人教育校

3,600+
従業員

96.1%
卒業率
(対して、州全体では87.4%)

100%
の学校が整備良好状態にある

英語科 (ELA) における州の学力評価
カリフォルニア州教育ダッシュボードで“高”評価を得た比較対象学校区で第一位にランクイン

数学における州の学力評価
カリフォルニア州学校ダッシュボードで“高”評価を得た比較対象学校区の中で、第一位にランクイン

予算内訳

43%	認定保有職員の給与	$151,886,000
17%	各種分類別職員の給与	$58,456,000
22%	従業員福利厚生	$77,970,000
4%	消耗品や教材	$13,234,000
14%	その他の事業	$48,818,000
Total		**$350,364,000**

学生の民族性

34.8%	ヒスパニック系／ラテン系
26.9%	アジア系
18.5%	白人系
9.6%	二種以上の人種を持つ
4.7%	フィリピン系
4.1%	黒人／アフリカ系アメリカ人
0.4%	太平洋諸島民
0.2%	アメリカ先住民
0.7%	その他／報告なし

未来の企業家のインターンシップ トーランスでパイロット年度を開始

本学校区の4つの高校から26名の意欲溢れる生徒が、教室の枠をこえ、初開催となる**未来の企業家のインターンシップ**シップを通じて実社会のビジネスの世界へと踏み出しました。生徒たちは、実際のビジネスの現場で学ぶ4週間の貴重な体験を通して、ビジネスやマーケティングの世界を肌で感じました。



このプログラムは、Surf Management, IncからKarl氏とSally Fechner氏を記念してご寄付いただいた支援により実現したものです。生徒たちはAmerican Honda社、Robinson Helicopter Company社、Bluestem Hotel, そして**トーランス統一学校区**で企業の舞台裏に触れることができました。各訪問先では、業界の専門家が知識と経験を共有し、メンターが週ごとのデザイン課題に取り組む生徒たちをサポートしました。さらに、カリフォルニア・ルーテル大学の**トレーシー・ニクル博士**と トーランス高校の**ドン・グラビィック**ー教員のリーダーシップのもと、**Project ECHO**のカリキュラムを活用し、プロとしてスキル、ビジネスの基礎、マーケティングを学び、実践する機会を得ました。



アメリア・チャンさんは、こう話しています。*"このプログラムは、自分の殻を破るとても良いチャンスでした。私はもともと内向的で、人前で毎日発表するなんて初めての経験でした。ビジネスに少しでも興味があり、かつ人前で話す力を磨きたいと思っている人には、ぜひ挑戦していただきたいプログラムです."*

最終日のプレゼンテーションの審査では、生徒たちの成長や創造力、そしてチームワークが存分に発揮され、優勝したHoloTeachチームは、AIが生成する映像を活用したホログラフィック教育プラットホームという革新的なアイデアで高い評価を得ました。 このプログラムを通して、生徒たちは自信を深め、人脈づくりのスキルを身に着け、将来の可能性をより明確に思い描けるようになりました。これまで気づかなかった自分の強みを発見し、新たな扉を開いた経験は、まさに将来への成功へとつながる大きな一歩となりました。

語学クラスが生徒に国際的な旅行の機会を与える

2024年11月、ウェスト高校の5名の生徒が韓国・大邱教育庁が主催する学生文化交流プログラムの一環として韓国ソウルを訪問し、卓越したグローバル市民性を発揮しました。滞在中は、韓国、ウズベキスタン、オーストラリアの生徒たちとチームを組んで交流しました。「*出会った人々の温かさと優しさが、この経験をさらに特別なものにしてくれました。滞在中はずっと、歓迎され、大切にされていると感じました*」と卒業生のリリック・サラウサさんは振り返ります。



生徒たちは、市内観光や韓国の王宮、博物館、学校、歴史的名所の訪問、そして地域の人々との交流を通じて韓国文化に深く触れることができました。ウェスト高校の韓国語教員で、今回の引率を務めた**カリン・リー先生**は、生徒たちが 自身の母国を訪れる体験がどれほど意義深いものであったかを語りました。「**文化交流プログラムで、生徒たちがK-POPダンスを披露する姿を見て*大きな誇りを感じました*」**とリー先生は述べています。*「今後も、生徒たちと共に韓国文化の美しさを探求し、祝い、分かち合える機会をさらに重ねていきたいと思います。*

SOUTH BAY'S BEST
34TH ANNUAL READERS' CHOICE AWARDS
2025
DAILY BREEZE
THE BEACH REPORTER

なぜトーランス統一学校区なの？

本学区は、Daily Breeze/Beach Reporter 年間リーダーズ・チョイス・アワードにおいて、5年連続で「最優秀公立学区」に選ばれました。さらに、北地区高校（North High School）、カシミア中学校（Casimir Middle School）、カー小学校（Carr Elementary School）をはじめとする 計32部門での受賞という大きな栄誉をいただきました。

加えて本年度は、ジョン・アダムス小学校、アーリントン小学校、タワーズ小学校、そしてユーコン小学校が、**2025年優秀校（Distinguished Schools）**として表彰されました。

ご入学や学区についての詳細は、知識豊富な Family Welcome Enrollment Center までお気軽にお問い合わせください。

将来の教師たちへの投資

サウスベイ部会教員研修プログラムは、トーランス、ローンデール、ワイズバーン学校区とのパートナーシップにより、特別支援教育、デュアルランゲージ、STEMといった高度なニーズを要する分野における教員不足への対応を支援しています。本プログラムは、地域住民や元生徒を採用し、トーランス地域に教員として戻ってくることを促すことにより、***「自らの人材を育成する」***ことに焦点をあてています。この取り組みは、教育者のパイプラインを強化し、生徒が自分自身を教師に重ね合わせてみることを可能にし、つながり・代表性・そしてインスピレーションを育むものです

第一期コホートの参加者は順調に成長しており、そのうちの三名は学校全体で模範的な実践を示したことにより、**トーランス統一学校区PTA教育者賞**を受賞しました。ノース・トーランス在住で、生涯にわたりサウスベイで音楽活動を行ってきた音楽家であり、ニール・ヤング氏やジョン・メイヤー氏と共演経験もある**アレックス・スミス氏**は、カジミア中学校の授業に音楽を取り入れることで、生徒の学びを引き出し、深化させています。**エミリー・ソラン氏**は、サウスベイ在住で地域のスタジオでダンス講師を務めており、マグルーダー中学校で、特別支援教育の共同授業を教室で最初に試みた教員の一人でもあり、その献身的な姿勢から、学校の生徒・ファミリー・同僚に広く慕われています。**サラ・ロメロ氏**は、元プロサッカー選手であり、**リビエラ小学校とウォルテリア小学校**で、生徒と一緒にフィールドに立ち、サッカーへの情熱を分す。最良の学習体験を提供することに深く献身しており、同僚からも、大切な仲間とされています。



本プログラムは**カリフォルニア州の実施助成金**に支えられており、参加者は**教員資格や修士号取得の過程で、4万ドルの奨学金**を受給し、指導教員からの貴重な助言を得ることができます。多くの指導教員は自身が教える以上に研修員から学んでいると述べており、それが自身の教育への情熱を新たにする契機になっています。

2025－26学年度の第三期コホートを迎え、私たちは引き続き、すべての生徒を毎日支えるトーランス統一学校区の次世代の教員を育成してまいります

高校生が社会に足跡を刻む

トーランス統一学校区の高校生は、毎年、地域のために奉仕するコミュニティ・プロジェクトに取り組み、かつ、市民教育における卓越性を示す**カリフォルニア州「市民的関与の州認証」**を取得する資格を得る機会が与えられています。以下の生徒たちは、過去二学年度にわたりこの課題に挑戦し、地域のメディアでも彼らの卓越した活動とプロジェクトの持続可能性を、折々に取り上げてきました。

ノース高校
タイラー・タナカ、新卒生



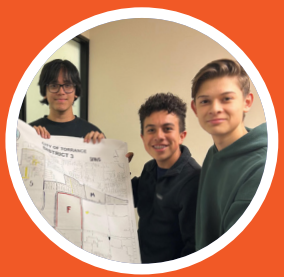
数学力向上プログラム
タイラーさんは、トーランス統一学校区の小学生が数学を理解し、評価できるように奨励して、中学校や高校へ進学する際に必要となる数学の力を向上させる準備を整えられるプログラムを作成しました。

サウス高校
アレクシス・チョイ、ケイリン・カン、新卒生



「小さな図書館」の設置
アレクシスとケイリンは、サウス高校の美術・木工クラスの協力を得て、トーランス市内の公園に童話から着想を得た図書ステーションを設置し、地域社会が本に親しみ、読書を楽しむ機会がさらに広がりました。

トーランス高校
セス・モンテネグロ、ファルハーン・ファルーク、ミゲル・レイス、新卒生



点字ブロックの設置
生徒チームは、トーランス高校付近において不足している歩道を特定し、地図や技術を活用して歩行者と交通の安全向上に取り組みました。

トーランス高校
カーラ・キム、11年生

「ターター・スレッズ」寄付ブティック
カーラさんは、必要とする生徒が人目を気にせずに衣服やその他の必需品を受け取ることができるよう、構内におしゃれな寄付ブティックを創設しました。



海兵隊退役軍人が卒業証書取得の第二のチャンスを得る

毎年の卒業式シーズンには、多くの生徒が高校生活の努力を結実させ、待ちに待った卒業証書を手にします。けれども、人生が予期せぬ障害をもたらし、十代の生活から若くして大人の世界に踏み出さざるを得なかったらどうでしょうか。**ウェスト高校**出身の**ロバート・テイラー氏**がまさにその事例でした。彼は74歳の退役軍人で、1968年に、家族の不幸をきっかけにして、高校の最終学年に進級する途中で、**ウエスト高校**を離れ、アメリカ海兵隊に入隊せざるを得ませんでした。

退役軍人に焦点を当てた拡充中のプログラム**「オペレーション・レコグニション」**を通じて、**トーランス成人学校（TAS）**は、約60年を経て2025年の卒業生としてテイラー氏を卒業することを実現し、夢をかなえることができました。本プログラムは、第二次世界大戦、朝鮮戦争、ベトナム戦争に従軍した退役軍人、並びに抑留所に収容された者で、卒業前に従軍したために卒業できなかった者を対象に、高等学校の卒業証書を授与し、その功績を認め、敬意を表するものです。





退役軍人ボランティア擁護者で、テイラー氏の認定にあたりTSAのステファニー・ルイス校長に働きかけた**チャーム・マックエルリー氏**は、**「齢を重ねると、自分を支え続けてくれる何かを求めるものです」**と語りました。

この貴重なプログラムに対して感謝を表しつつ、テイラー氏は次のように語りました。**「何より大切なのは、人がよりよい形で機会を得られるようになることです。世代が違えば環境も異なります。卒業証書がないことが機会を奪うかもしれません。しかし実際には、その卒業証書を受け取る機会がきちんと用意されているのです。」**

「オペレーション・レコグニション」の対象となるかもしれない退役軍人の方をご存じでしたら、ぜひtsa.orgをご案内いただき、この貴重なプログラムについて知っていただけるようお声かけください。

小学校から高校卒業まで数学力を伸ばす加速プログラム



トーランス統一学校区の**数学加速プログラム**に対する生徒の需要は拡大を続けています。今年の夏には、学校区内のすべての中学校（８校）が初めて夏季加速クラスを提供しました。このプログラムは、5年生から9年生の生徒に対し、自主的な学習、自由登録、評価、または夏季講習を通じて、学年を超えた履修準備の能力を示す機会を提供し続けています。加速後も、生徒が次の科目で成功できるよう、継続的なサポートを提供しています。

「加速のおかげで、毎年数百人の生徒が最高レベルの科目に到達し、成功することが可能となっています。」と、州および連邦プロジェクト部長、**スコット・マクダウェル博士**は述べました。

成果は卓越しています。わずか5年間で1,000人以上の生徒が加速を経験しました。95%がその後の数学科目でAまたはBを取得し、**100%が卒業まで毎年上級数学を履修し続けています**。さらに加速により、時間割に余裕が生まれAP微積分、AP統計学、APコンピューターサイエンス、データサイエンスといった高度な科目に挑戦できる道も開かれています。



卒業生の肖像の要素である**成長志向と生涯学習**に沿って、このプログラムは、生徒が人生のあらゆる局面において問題解決し、戦略的思考を養い、あらゆる大学や将来のキャリアに向けた成功への準備を整えます。

学生たちはプロレベルの演劇体験を楽しんでいます

毎年、中学生の演者たちは高校のキャストとともに最新設備を整えた舞台芸術センターにおいてオーディションに挑戦し、舞台に立つ機会を得ています。地域の皆様、そしてて**Measures T & U**および**Arts and Music in Schools (AMS)**資金へのご支援のおかげで、これらの若い出演者たちは、高度な照明、音響、舞台技術を備えた本格的な会場で演劇に取り組むことができます。少し前までは、中学校の公演といえば、折り畳み式の昼食用テーブルが並ぶカフェテリアで行われていました。今日では、世界水準の公演のために設計された空間に立ち、**カール・メイヤー校**の「ビートルジュース」、**トーランス高校**の「スポンジボブ・ザ・ミュージカル」、**ノース高校**の「リーガル・ブロンド」や**ウェスト高校**の「ファインディング・ニモジュニア」といった作品を確かな技術と自信をもって演じました。



演劇は、感情表現、協力、そしてしなやかに立ち直る力を育むことによって、生涯にわたる健全な習慣を育成します。「ビートルジュース」では、生徒たちは悲しみ、友情、自己受容といったテーマを探求し、心の健康について意義深い対話を生み出しました。このような体験は、生徒たちに健全な方法で自己表現する手段を与え、前向きな人間関係を築き、学校生活やその先の人生で生き抜く力を育ててくれます。

卒業生スポットライト

2001年に**ウェスト高校高校**を卒業して以来、**ウェンディ・クチョ氏**は、FOXスポーツのアソシエイト・プロデューサーとして、4度のエミー賞受賞者となりました。彼女のスポーツへの情熱とグラフィックス制作に関する知識が、FOXスポーツMLBチームにおける予期せぬ役割につながり、2022年には、ワールドシリーズ特別番組「フィールド・オブ・ドリームス」により、チームとともにエミー賞を受賞しました。

忍耐、理解、そしてチームメンバーへの指導を通して**「リーダーシップと人格」**を体現するウェンディ氏は、これらの特性を2019年に逝去した卒業した高校のバンドディレクター、ジェームズ・バニム氏から学んだと語ります。ウェンディ氏は彼のレガシーを称え、***「先生が私たちを安定したリーダーシップで導く様子は強く心に残り、その姿勢を自らの仕事に取り入れています。」***と述べています。



彼女はキャリアを通じて数々のリーダーシップの役割を担っており、トーランス統一学校区の生徒たちに、多様なキャリアの道が存在することを知ってほしいと願っています。***「心を開いてあきらめず、必要であれば自分自身の分野を創り出す覚悟をもつことです。道は予期せぬものであるかもしれませんが、それでもとても充実したものになり得ます。」***と助言しています。エミー賞の受賞は彼女の目標ではありませんでしたが、ウェンディ氏はその栄誉を「すでにやりがいのあるキャリアに加わった**最高の飾り**」と表現しています。

他の同窓生の活躍をご存じでしたら、メールで**communications@tusd.org**までお知らせください。お待ちしております。